

2009年度推薦入学選考（11月20日実施）

国語分野問題

〈国1〉ページ～〈国9〉ページ

二 次の文を読んで、あとの問いに答えなさい。

今は昔、小野宮殿の御子に、少将なる人おはしけり。佐理の大式すけまさの親なり。はかなく思ひて失せにければ、小野宮殿、泣きこがれたまふこと限りなし。さて、忌み果て方になるほどに、この少将の御乳母(a)の、陸奥国(b)の守(c)の妻(d)になりて行きたりけるが、「若君かく失せたまへり」とも知らで、恋しくわびしきよしを書きて、馬たてまつりたりけるに添へて、御文(1)まゐらせたりける。返事、小野宮殿ぞ書きつつかはしける。「その人は、このほどに、はかなく思ひて失せにしかば、ここには今まで生きたることをなん、心憂(2)く(1)かり書きて、歌をなん詠みてつつかはしける。

まだ知らぬ人もありけり東路(2)に我も行きてぞ過ぐべかりける
と書きてつつかはしけるを見て、乳母、いかなる心地(2)しけむ。

(出典 『古本説話集』)

問1 線(a)～(d)の「の」のうち、同格を表しているものはどれか、記号を書きなさい。

問2 空欄 A に動詞「おぼゆ」を適切な形に直して入れなさい。

問3 線(1)「御文まゐらせたりける」とあるが、この「御文」はだれがだれにあてて書いたものか、最も適当なものを、次の中から選び、記号を書きなさい。

- ア 小野宮殿が少将にあてて書いた手紙
- イ 小野宮殿が乳母にあてて書いた手紙
- ウ 乳母が小野宮殿にあてて書いた手紙
- エ 乳母が少将にあてて書いた手紙
- オ 少将が小野宮殿にあてて書いた手紙
- カ 少将が乳母にあてて書いた手紙

問4 ———線(2)「私も行ってぞ過ぐべかりける」の解釈として、最も適当なものを、次の中から選び、記号を書きなさい。

- ア 私もそちらに行つて息子が成長した土地でひと時を過ごしたいものだ
- イ 私もそちらに行つて息子の思い出とともに余生を過ごしたいものだ
- ウ 私もそちらに行つて息子の死を知らずに過ごしたいものだ
- エ 私もそちらに行つて息子についても語りあいながら過ごしたいものだ

問5 本文の内容に合うものを、次の中から一つ選び、記号を書きなさい。

- ア 乳母は、少将の死を知つて、馬を贈ることで弔意を表した
- イ 小野宮殿は、少将の死を悲しむあまり、自分が生きていることをつらく思った
- ウ 乳母は、小野宮殿からの手紙で少将が亡くなったことを知つて、悲嘆に暮れた
- エ 乳母は、少将の喪が明けると間もなく、陸奥国の守の妻として旅立つていった

二 次の文を読んで、あとの問いに答えなさい。

『孤独なる群衆』の著者として知られるD・リースマンはコミュニケーション史の観点から文化の発展段階を三つに分けている。第一には口話コミュニケーションに依存する文化、第二は印刷された文字のコミュニケーションに依存する文化、**A** 活字文化、第三はラジオ・映画・テレビ等の視聴覚的メディアに依存するいわゆる大衆文化である。リースマンの問題意識は活字文化によって形成された内的志向型の人間にかわって、映画・テレビ等の映像文化によって鑄出された他人志向型の人間が登場する過程の追求にその焦点が合わされているのであるが、さしあたりここでとり上げたいのは、彼が第一と第二の過渡期、活字が口話コミュニケーションを複製する手段として併用されていた時代を考えているということである。

リースマンはピューリタニズムとの関聯において黙読の習慣の成立を把えようとする。印刷術の発明された十五世紀から、ピューリタニズムのもとに個人的、内面的な読書の方式が一般化する十八世紀までは、**B** の前期ないしは準備期として規定されるのである。

「じつにグーテンベルグが出た後でさえ、現代の読書の方式が一般化するまでには長い時を要した。書物は独りで読まれる時ですら、声をあげて朗読された。そのことは文字が発音通りに自分勝手に綴られた（ジョンソン博士の辞書が正字法を統一するまでは）ことにも示されている。印刷された行をななめに、頭を校のように素早く動かしながら、黙ったままで脚光を浴びない内密な読み方をすることを学んだのは——これはいかにも彼等然としている——清教徒である。（ア）このように比較的時代がくだってから始めて印刷された書物が外への扉と同じく内への扉を開いたのであり、他人の存在という喧騒から孤独へと人を誘ったのである。」黙読によって書物が享受される時代に、音読の習慣が卓越する時代が先行することは、リースマンのような社会学者ばかりでなく、読者層の問題に関心を寄せる文学史家の側からも指摘されている。たとえばイギリスのばあい、エリザベス時代には、詩はもちろん、散文でさえ朗読による実演を顧慮して書かれたのであり、活字の機能を完全に駆使した文学のスタイル——散文の小説は、十八世紀初頭ジャーナリズムの発生とともに漸くその姿を現わすのである。一方、十七世紀には読書といえは、それは殆ど例外なく声に出して読むことを意味していた（句読点の切り方は構文ではなく、発声にもとづいていた）。（イ）またドイツのばあい、父親や母親が、子供達に本を朗読して聞かせている場面は、市民の家庭風景を描いた十八世紀の通俗画が好んで取扱う画題のひとつであったという。

日本のばあい、活版印刷術の移入に先立つ木版整版印刷の期間が、ほぼこの音読の時代に対比しうると考える。そして活版印刷と木版

印刷との交替期にあたる明治初年は、リースマンのいう口話コミュニケーションの段階から活字コミュニケーションの段階への過渡期、それもその最終期であったと規定されよう。(ウ)このことは、いいかえるならば、活字が個人的なコミュニケーション様式として作用する一方、家族共同体・地域共同体・精神的共同体等、集団を単位とするコミュニケーション様式として作用する場合も少なくなかったことを意味している。家族共同体における戯作小説や小新聞、地域共同体における新聞解話会、精神的共同体における政治小説は、それぞれこの集团的・共同的な享受方式のあり方を典型的に示しているものであろう。

この音読から黙読へという享受方式の移行過程を、同時代人のひとりとして、大まかながらかなり正当に認識していたのは坪内逍遙である。明治二十四年四月「国民之友」誌上に掲載された「読法を起さんとする趣意」はいわば逍遙の文学的経歴の曲り角——小説改良から演劇改良へ——で書かれた論文であるが、ここで注目したいのはその文学享受の理論としての性格である。

逍遙はこの論文の冒頭で、上古の時代は **C** も無く用紙も乏しく著作の流布に困難をきわめたために「朗誦朗読の必要」が起つたと述べ、ホーマーやヘロドタスの名を挙げつつ「節奏文(韻文)が「無調の文章」(散文)に先立って現われたのは、この朗読という発表形式と関聯していると説明する。(エ) 続いて逍遙は自問自答の形式をかりて論をすすめながら、現代は上古とは異なり、教育が普及し、印刷術が発達した結果、「一篇の文章の忽ち化して数万の印刷物となり同時に億万人に黙読せらるる世」になったとし、「昔人こそ耳をもて他人の作を読みもしたりけめ今人は目もて読み得べき便宜を得」ている以上、学習の方法、あるいは他人への伝達的手段として理解されていた従来の朗読法が、 **D** ことを指摘する。ここで逍遙は「人性研究法」の一端に応用しうる新しい読書術Ⅱ「論理的読法」を提唱するのである。

(出典 前田愛『近代読者の成立』)

問1 ~~~~~線「喧騒」の読み方を、ひらがなで書きなさい。

問2 空欄 **A** に入れるのに、最も適当なものを、次の中から選び、記号を書きなさい。

- ア) とはいえ イ) ゆえに ウ) だが エ) すなわち

問3 空欄 **B** に入れるのに、最も適当な言葉を、本文中から四字で抜き出しなさい。

問4 空欄 C に入れるのに、最も適当な言葉を、本文中から三字で抜き出しなさい。

問5 空欄 D に入れるのに、最も適当な文を、次の中から選び、記号を書きなさい。

- ア 封建的なものに化しつつある
- イ 無自覚なものに化しつつある
- ウ 断片的なものに化しつつある
- エ 無意義なものに化しつつある

問6 本文中、次の一文が省略されている。(ア) (エ) のどこに入れるのが最も適当か、記号を書きなさい。

印刷された文字は自律的な媒体としての機能を十分に発揮しえず、口話コミュニケーションの複製ないしは再現の手段としての役割をなお兼帯していた時代なのである。

問7 本文中のリースマンの考えに合うものを、次の中から一つ選び、記号を書きなさい。

ア 活字印刷の技術が発明されたあとも本の読み方は変化せず、ピューリタニズムによって内への扉が開かれるのを待たねばならなかった

イ エリザベス朝は、散文でさえ朗読されたことからわかるように、活字が口話コミュニケーションを補完した時代である

ウ 近代に至ってようやく現われるラジオその他の視聴覚メディアによって、人間の文化は新たな第三の、すなわち内的志向型の段階に入った

エ 現在の黙読の習慣は、独りで静かに書物を読むような、孤独を好む人々の中から出現した

問8 本文中の坪内逍遙の考えに合うものを、次の中から一つ選び、記号を書きなさい。

ア 小説から演劇へ視野を転じてみると、同時代の人々が音読から黙読に移行しているという事実がはっきりしてくる

イ 現代では、一つの文章が瞬時に数万にも複製されるため、学習の方法が変わり、教育も普及することになった

ウ ホーマーやヘロドタスが「節奏文」で作品を書いたのは、朗読に頼らなければそれを広めることが難しかったからである

エ 昔の人がいわば耳で本を読んでいたので、今の人は目で本を読むようになり、そこにおのずと「論理的読法」が現われた

問9 本文の内容に合うものを、次の中から二つ選び、記号を書きなさい。

- ア 坪内逍遙のいう「今人」の時代は、その特徴から見て、リースマンの考える第二、三段階の過渡期に相当する
- イ 活字印刷が木版に取って代わる時代になっても、共同体的な本の読み方の残っていたのが、日本の明治の初年である
- ウ 明治初年にあつては、家庭のなかで読まれていたさまざまな小説は、すぐれて活字コミュニケーション的であつた
- エ 日本においてごくありふれた習慣となつている黙読は、ピューリタニズムとの関係で、明治以降に成立したものである
- オ 西洋で、単語の書き方が統一されていない時代があつたが、それは、声に出して本を読む習慣が存在していたことを反映している
- カ リースマンによれば、内的志向型から他人志向型への移行は、音読の習慣が卓越する時代の終わりを示している

四 次の1～5の空欄 に入れるのに最も適当な語を、それぞれ後の選択肢の中から選び、記号を書きなさい。

1 お父さんに叱られて青菜に だね

2 すこしぐらい叱られても、あの子には蛙の面に だ

3 めぐりめぐって天に することになりますよ

4 虎は死して を残し、あの作家は作品を残した

5 そこで止めると仏作って 入れずになるなあ

- ア 酒 イ 魂 ウ 骨 エ 水 オ 塩 カ 皮 キ 湯 ク 瞳 ケ 体 コ 唾

2009年度推薦入学選考（11月20日実施）

〈基礎テスト〉

英語分野問題（1ページ～6ページ）

数学分野問題（7ページ～13ページ）

国語分野問題（〈国1〉ページ～〈国9〉ページ）

※国語分野は反対の面から始まっています。

注 意 事 項

1. 試験開始の合図があるまで、問題用紙を開いてはいけません。
2. 問題は、**英語分野1～6ページ**、**数学分野7～13ページ**、**国語分野〈国1〉～〈国9〉ページ**です。どのページも切り離してはいけません。試験時間中に、印刷の不鮮明や落丁・乱丁等に気づいた場合は、手を挙げて知らせてください。
3. 公募制推薦入試〔併願制〕、公募制推薦入試〔専願制〕を受験される方は、英語分野、国語分野、数学分野の3分野のうち2分野を選択して、解答してください。ただし、文学部英語コミュニケーション学科および看護学部看護学科は英語分野、文学部日本語日本文学科日本語日本文学コースは国語分野を、必ず選択してください。
4. 特技推薦〔書道部門〕、特技推薦〔課外活動部門〕、総合学科・専門学科推薦入試を受験される方は、必ず「国語分野」を選択してください。
5. 解答は、すべて解答用紙の所定欄に、問いの指示にしたがって記入してください。
6. 解答用紙には、黒の鉛筆（シャープペンシル可）を使用し、はっきりと丁寧に記入してください。ボールペン、万年筆、サインペンなどを使用してはいけません。また、答えを訂正する場合は、消しゴムで完全に消してから記入しなおしてください。
7. 解答用紙を破ったり、汚したりしないように注意してください。また、**解答用紙は切り離してはいけません。**
8. 試験開始までに、監督者の指示にしたがって、受験分野の解答用紙にあなたの氏名（カタカナ）および受験番号を記入してください。また、受験分野の所定欄に○印を必ず記入してください。（公募制推薦入試〔併願制〕、公募制推薦入試〔専願制〕を受験される方は、受験する2分野に忘れずに○印をつけること）
9. 問題用紙は、試験終了後、持ち帰ってください。